

# 第23回高校生ものづくりコンテスト全国大会に出場して

学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校 教諭 吉野 貴幸

### 1 はじめに

本校は「菅原道真公」が祀られている福岡の太宰府天満宮に一番近い高校であり、自動車科は昭和44年(1969)設立で55年を経過しています。高校生ものづくりコンテストも出場回数を重ね、これまで福岡県大会5連覇で上位大会入賞を目標に頑張っています。

### 2 令和5年度の目標

第23回高校生ものづくりコンテスト全国大会九州大会の開催で、「自動車整備部門」は地元福岡で行われることもあり、目標を「全国大会優勝」と高く掲げて出発しました。令和5年度の出場選手として、自動車科3年の金子さん(女子)と宮本さん(男子)の2名を選出しました。金子さんは、自動車への興味が強く、車の知識や技術を習得し自分のものにする能力に優れた生徒です。宮本さんは家業が整備工場であり、兄も本校卒業生でものづくりコンテスト出場経験者だったことから、自動車整備に強く興味を持ち探求心が旺盛な生徒です。この2名で地元大会の頂点を目指そうと指導者からも気を引き締めて取り組みました。

### 3 車と真剣に向き合う姿勢

競技は工具、測定器具、ベンチエンジン、車両を扱って作業を行います。練習では頭で覚えたことを実践するのも大切ですが、ひたすら手に取っていじりまくる「五感」を働かせて体に覚え込ませる方法を徹底しました。また、「車と対話をする感覚で作業を行う」ことを実践させながら作業させました。

### 4 一致団結の大切さ

二人とも、課題練習中には多くの難関に遭遇しました。作業に時間がかかる、頭の中で想像した行動ができないという場面が見られました。その際に励まし支えてくれたのが、二人が所属する「自動車研究部」の部員達でした。部員たちは各自、練習教材や機材の準備、片付け、整理整頓などを自分たちで行い、作業内容を分担することで二人

の負担軽減を考慮し「一致団結」して「チーム」として行動してくれました。指導者の立場からも「感謝」の気持ちで一杯でした。

### 5 心のゆとり

競技の作業内容が「自分の形」として成立してくると、行動が素早くなり、動作に余裕が出てきました。最初の頃は、雑な作業で、工具や計器も片付けなかった状態が、後には安全に丁寧に確実な作業が行える状態に成長しました。それと同時に、精神面でも気持ちが落ち着き、冷静さが伺え、練習終了時には二人から部員に「お礼の言葉」を毎回かけるようになり、また廊下ですれ違う教員らにも自ら挨拶するようになりました。二人の人格的な面も成長しました。

### 6 まとめ

全国大会の結果は、金子さんが「優勝」に輝き「国土交通大臣賞」「日本自動車教育振興財団賞」を受賞しました。宮本さんは「第3位」となり「自動車整備部門」で2名入賞の快挙を成し遂げました。ものづくりは、機械やAIが判断して品物が完成するだけでなく、それに「人」の心や技が兼ねあってより良い製品が出来上がることを感じました。今、日本中でどの業界も「人手不足」で問題を抱えています。各企業が機械やAIの開発に奮闘しています。しかし、これを開発・製作していくのは人間であり、創っていく「人間」こそが、「しっかりとした判断力・精神力・実行力」を持ち備えないと実現しないと考えました。「ものづくり」の原点は「人づくり」を実感させられる貴重な経験を、生徒・指導者共に全国大会を通して学ばせていただきました。



優勝の金子さん



第3位の宮本さん